
詩を書く人よ、小説を書け

月島 真昼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩を書く人よ、小説を書け

【Nコード】

N8781I

【作者名】

月島 真昼

【あらすじ】

詩を書く人に送る。「無理だ」なんて言わずに一度考えてみてください。

小説家になろうに投稿された詩を見ていると時々悲しくなることがある。

届かないのだ。その人が何を思ったのか。

勿論「お前の読解力不足だ！」と詩を書く人々は真昼を非常に正しい正論でぶった切るだろう。真昼はそれに返す言葉を持たない。

しかしあえて聴いて欲しい。

そもそも詩とはなんだろうか？ 真昼は詩を読ませることは非常に難しいと思う。

それは過程がないからだ。

全ての詩がそうであるとは言わないが大抵の詩は「私はこう思った」ということを書いているのであって「私はこういう体験を通じて、」という過程が抜けているのだ。

その行程を抜かして共感を得ることはよほど考えの合っ人でないと不可能だと断言する。

雨にも負けず
風にも負けず

この言葉から始まる詩をきくと誰もが聴いたことはあると思う。

彼は雨に負けたのだ。風にも負けたのだ。雪の冷たさにも夏の暑さにも負けたのだ。

だから思った。なにものにも負けない、「そういふものにわたしはなりたい」と。

抽象的でもいいのだ。どうかあなたが感じたものの過程を重んじてあげて欲しい。

だから真昼は声高に言おう。

詩を書く人よ、小説を書け！

(後書き)

あくまでこれも「小説」ということで大袈裟に書きましたが、月島真昼は別に詩を批判してるわけじゃありません。

詩が小説に劣ってるような書き方にも取れたようなので謝罪します。すいませんでしたm(´`´)m

宮澤賢治の詩なんかはむしろ真昼はわりと大好物なんです……
いくつかの詩を見て1人が思ったエッセイなのでこういう考えもあるんだとご容赦くださいorz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8781i/>

詩を書く人よ、小説を書け

2010年10月10日12時34分発行